
「当院でのRSC（ロボット支援下腹腔鏡下仙骨腔固定術）の導入と課題に関する検討」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの診療録から抽出したデータを用いた以下の研究を実施いたします。

本研究は、当院での研究倫理審査委員会の承認を得て、病院長の許可のもと既存情報を使用します。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、残余検体やカルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2021年5月1日から2022年12月31日の期間に埼玉医科大学病院総合医療センターで骨盤臓器脱に対してロボット支援下腹腔鏡下仙骨腔固定術もしくは腹腔鏡下仙骨腔固定術を受けられた患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

本研究では骨盤臓器脱の患者様を対象とした症例調査を行い、手術成績に関して後方視的に解析を行い、安全にロボット支援下腹腔鏡下仙骨腔固定術を行っていくための対策を検討することを目的としております。

3. 研究期間

病院長の許可後～2023年12月31日

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

2021年5月1日～2022年12月31日に、骨盤臓器脱のため当院にて手術を施行した症例について、ロボット支援下腹腔鏡下仙骨腔固定術群と腹腔鏡下仙骨腔固定術群に分け、手術時間や出血量、手術工程別に要した時間や術中の合併症の有無に関するデータを診療録より抽出します。いずれも研究上必要のない患者氏名、患者ID、生年月日(年齢は除く)などについては抽出せず、個人を特定できないようにします。

この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学総合医療センターにおいて、研究責任者である鮫島浩輝が管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

2021年5月1日～2022年12月31日に、骨盤臓器脱のため当院にて手術を施行した症例につ

いて、ロボット支援下腹腔鏡下仙骨腔固定術群と腹腔鏡下仙骨腔固定術群に分け、手術時間や出血量、手術工程別に要した時間や術中の合併症の有無に関するデータを診療録を用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

埼玉医科大学総合医療センター	産婦人科	助教	鮫島浩輝（研究責任者）
埼玉医科大学総合医療センター	産婦人科	助教	木崎雄一郎
埼玉医科大学総合医療センター	産婦人科	助教	黒瀬喜子
埼玉医科大学総合医療センター	産婦人科	准教授	松永茂剛
埼玉医科大学総合医療センター	産婦人科	教授	長井智則
埼玉医科大学総合医療センター	産婦人科	教授	高井泰

4. 試料・情報の管理責任者

<提供元機関> 埼玉医科大学総合医療センター 病院長 別宮 好文

お問い合わせについて

ご自身の検体やカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

住所：〒350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981

電話：042-228-3681（土日祝日を除く 8：30～17：30）

メールアドレス：samejima@saitama-med.ac.jp

○研究課題名：当院での RSC（ロボット支援下腹腔鏡下仙骨腔固定術）の導入と課題に関する検討

○研究責任者：埼玉医科大学総合医療センター 産婦人科 鮫島浩輝